

校長室だより第9号（令和5年5月26日）

今週の6年生は大忙し。

火曜日には委員会活動があり、各委員会に分かれて4・5月の反省会や今後の活動について話し合いを行うとともに、各委員会の様々な仕事を行いました。

水曜日にはゆりのき活動があり、1年生を教室に迎えに行ったり、1～5年生の前で話をしたり、全員が楽しめるゲームをしたりと活躍しました。

木曜日には地区別活動があり、同じ地区に住む子どもが各教室に集まり、顔合わせをしました。そこでも、6年生は地区のリーダーとして頑張りました。

3つの活動とも、6年生はリーダーとして、その場を仕切りました。私は、人が成長するためには、この仕切る経験が必要だと考えます。

仕切ってはみたけれど、うまくいかなかった経験があると、自分が仕切られる立場になった場合でも、「協力しよう」「どうすれば全体がうまく進むかな？」などと考え、行動できるようになります。

また、失敗を生かして、「次回をうまく仕切るためには、どんな準備をすればよいか。」を考え、行動するようになります。うまくいくと、自信がつき、自己肯定感がアップします。

いろいろな経験を通して、「仕切る力」「自信」をつけ、自己肯定感をアップさせてほしいのです。6年生には、特にそのチャンスがあります。

そして、金曜日。加曾利貝塚の方が来校し、縄文時代の土器や道具、アクセサリーなどを見せてくれました。また、「火おこし体験」も行いました。グループに分かれて、木と木をこすり合わせて行う、つまり摩擦方式で火おこしをしたのですが、これがなかなか難しい。協力なくしては、火をおこすことはでき

ません。声をそろえて、木をこすり合わせると少しずつ煙が生じます。焦げているにおいもしてきます。そこに、火口（ほくち・・・火をおこすための木くずのようなもの）を置くと、火口にとっても小さな、小さな火が移ります。

その火口を空中に掲げ、より空気に触れるように軽く振ると、「ぼあっ」という感じで火が付きます。みんなの歓声が上がります。火口を持った子はまるで自由の女神のように、誇らしげに火を掲げています。

金曜日の火おこし体験は、火曜日から木曜日まで頑張った6年生のためのご褒美かもしれません。